

授業の「主役」は子ども。 先生って何する人なの？

単にグループで話す、予定された道筋をたどり模範的な答えを出す—形ばかりの「アクティブ・ラーニング」への疑問が呈される中、ともに考え、対話から次々と問いが生まれる、子どもたちが真にアクティブに学ぶ授業があるといます。カギは“先生の在り方”。朝日新聞「わかるわかる運動」が日能研に聞いてみました。



授業という学びの ライブ空間でどう在るか？

日能研の授業。「今回は似ているところと違うところを見つけて、ことがら同士の特色をとらえる“考える技”を使っていこう」先生から提示される学びのテーマ。子どもたちが手にする素材はおいしい果物。もも! ぶどう! 山梨県はその最たる産地と、テキストから知識を得ます。「甲府盆地って昔は、くわ畑ばかりだ」「今は果樹園だらけだね」「養蚕農家が急激に減ったのは、外国から繊維製品が入ってきたり……」「電車の開通で、果物が売れるようになったなんて話もあるよ」先生も対話の中に。ふむふむ。なるほど。「どうして果樹園に変わっていったの?」「長野県だけ、諏訪盆地では……」。地形、気候、暮らす人……それぞれの関係から特色を考えます。「果物って、水はけのいいところが育ちやすい

んだ」「気温差も大事! 甘くなるんだって」「扇状地は水はけがいい」「降水量が少ない」「甲府盆地、スゲー!」—子どもたちはテキストの情報、自分の知識、仲間のチカラを合わせながら、広げたり整理したり。一人ひとりの中でダイナミックな学びが動き始めます。そんなやり取りに耳を傾けつつも……宙を見つめて考えていた子に「何か気づいた?」と先生が声をかけます。「……もし、今度は安い果物が日本に入ってきたら、どうしよう?」……教室がシンとなる。自分にはなかった視点が入ってくる。一人の素朴な問いがみんなの問いになる瞬間。ここはチャンス、もう一押し。「どうする?」「みんなと考える」がまた動き出します。

授業は学びのライブ空間! だから“先生”は何をしましょう。これからどう在りましょう—。

「待つ」「聞く」「観る」「感じる」……

「聞く、話す=対話」がさらに弾み、学びのライブ空間がより動くように。先生は「待つ」ために仕掛ける。子どもの反応、「考える」の動き、子どものココロの動きを想像し、タイミング良く、コトバを投げかける。クラスの状態と一人ひとりの様子を観ながら。感じる。聞く。全身を研ぎ澄まし、心ごと寄り添う—「何か伝えたそうだな……」「いま(状況=問題)に入り込んでいるな」「グッドクエスト!」「おっ、猛烈にテキストをめくり始めたぞ」「今のつぶやき、しみるな〜」……。もちろん、知識や情報は持ってますよ。深く広く、専門的に。“先生”ですから。

最後の10分で先生の求める答えに落ち着かせるような授業では、子どもたちが自分の学びを育めない。用意してあった答えに子どもたちが誘導される。一方的

な進行、伝達—そんな楽しくないことしません。日能研です。

集団と個人、関係の中で生まれる学びを大切に。子どもたちは(状況=問題)に対して、いつも同じ態度ではありません。中心となって話すことも、誰かを後押しすることも、ギョッとさせる視点や意見、問いを場に投げ入れることも。一人の中にさへ何役もいる、そんな集団とともに話を聞き、見つめ、大切に。多様な子どもたちが“自分”として、存分に役割を發揮して対話できる環境をつくることも、先生の大切な役割。—子どもたちと同じく、私たち日能研も日々アクティブ・ラーニングの真っ最中です。

授業、先生の在り方。しかけをふんだんに施したテキスト・テストづくり、環境も、学習システムも。すべては徹底した「子どもの学びが真ん中」のもと、日能研だから実現できるアクティブ・ラーニングがあります。未来を歩む子どもたちのためにいま必要な学びのかたち。日能研は準備しています。



そうか!

子どもたち一人ひとりの「考える」を体全体で感じながら、「場」がより動き、新たな問いが生まれる仕掛けや投げかけをする人なんだね。

考え方と出あう! — 国・算・総合テスト

日能研 学ぶチカラテスト

12月4日

小2 小3 小4 小5 参加無料

【科目】3科目(国語・算数・総合)
【会場】お近くの日能研各校
【時間】1回目 9:00集合
2回目 13:00集合
※一部、教室によって開催時間が異なります。詳しくは日能研ホームページで。

保護者会同時開催!

「テストから学ぶということ」「中学受験最新事情」「未来へつなげる学び」についてお話しします。

テストの詳細・お申し込みは

日能研 検索

またはお近くの日能研へ!
以下のQRコードからも!

学校行事などで都合がつかない場合はどうぞお気軽にご相談ください。

